

第 103 回大腸癌研究会
ステージ II 大腸癌のハイリスク因子に関する研究
第 6 回プロジェクトミーティング 議事録

【日時】 2025 年 7 月 3 日（木） 15 時 00 分～15 時 30 分

【開催会場】 グランユアーズフクイ 3F 第 1 会場 天山 3

<出席者（敬称略）>

赤羽慎太郎（済生会広島病院）、安達智洋（安佐市民病院）、天野隆皓（諏訪赤十字病院）、石井良幸（北里大学）、石田文生（昭和大学横浜市北部病院）、磯部聡史（杏林大学）、今岡光輝（安佐市民病院）、牛込充則（東邦大学医療センター大森病院、的場周一郎代理）、江本成伸（東京大学）、大石琢磨（静岡県立がんセンター）、大木悠輔（愛媛大学）、大地貴史（久留米大学）、大塚泰弘（防衛医科大学）、大沼忍（東北大学）、岡部直太（自治医科大学附属さいたま医療センター）、梶原由規（防衛医科大学）、加藤一輝（広島市立北部医療センター安佐市民病院）、門松雄一郎（順天堂大学）、金子由香（東京女子医大）、吉敷智和（杏林大学）、清松知充（国立国際医療研究センター病院）、高村卓志（国際医療福祉大学熱海病院）、後藤健太郎（京都大学）、小林宏寿（帝京大学医学部附属溝口病院）、佐々木和人（東京大学）、佐藤公彦（秋田大学）、佐藤圭佑（山形県立中央病院）、佐藤雄（東邦大学医療センター佐倉病院）、佐村博範（浦添総合病院）、柴田和男（国立がん研究センター東病院）、島田能史（新潟大学）、下村学（広島大学）、杉原健一（光仁会第一病院）、須藤剛（山形県立中央病院）、高島順平（帝京大学医学部附属溝口病院）、高津史明（四国がんセンター）、竹原雄介（昭和大学横浜市北部病院）、田中裕太郎（新潟大学）、谷口文崇（広島市民病院）、田村仁美（国立がん研究センター東病院）、田宮貞史（北九州市立医療センター）、塚本俊輔（国立がん研究センター中央病院）、坪山 尚寛（神戸大学）、豊島明（日本赤十字社医療センター）、内藤剛（北里大学）、中野麻恵（新潟大学）、能浦真吾（堺市立総合医療センター）、野上仁（新潟県立がんセンター）、羽賀敏博（国立がん研究センター中央病院）、肥田侯矢（京都大学）、日吉雅也（大森赤十字病院）、廣川高久（刈谷豊田総合病院）、深瀬正彦（山形県立中央病院）、藤井正一（湘南鎌倉総合病院）、藤島史喜（東北医科薬科大学）、古屋信二（山梨大学）、星野伸晃（京都大学）、松田請子（国立がん研究センター東病院）、水内祐介（九州大学）、宮倉安幸（栃木県立がんセンター）、虫明寛行（済生会横浜市南部病院）、八尾隆史（順天堂大学）、藪野太一（横浜市立市民病院）、山内慎一（東京科学大学）、山梨高広（北里大学）、山本聖一郎（東海大学）、吉川周作（土庫病院）、吉満政義（広島市立広島市民病院）

秋吉高志（研究代表者：がん研有明病院）、上野秀樹（防衛医科大学）、河内洋（がん研有明病院）、野口竜剛（研究事務局：がん研有明病院）

<議事>

・秋吉よりこの半年の進捗状況について共有した。

この直近 2 か月では 2 か月ともに月間の登録数が 96 例と伸びました。直近半年間で 405 例の登録があ

り、皆さまのご協力のおかげで、3年で3000例の登録のために目標とするペースとなってきました。日常臨床でお忙しい中、登録をしてくださり、厚く御礼申し上げます。

研究開始後最初の半年間が、がん研有明病院のIRBで承認～大腸癌研究会のIRB承認～各施設の実施許可までに費やしており、ほぼがん研のみからの登録となっており、登録が伸び悩んでおりました。

- ・実際の各ご施設の登録状況を秋吉からお示しした。

がん研は同意が得られるたび、その都度登録するようにしております。コンスタントにいてくださる施設や、ある程度まとめて大腸癌研究会の前に登録いただいている施設や、実施許可を直近で取得して同意書はとっていても登録はこれからという施設もあります。

実施許可取得し、同意は得られていてもまだご登録いただいていない施設は、本研究会後にご登録いただけたらと思います。

- ・副次研究の進捗について秋吉より報告を行った。

本研究にご参加いただいている病理の先生方より、自主的に参加いただける先生に参加いただいております。河内先生に代表医師となっただき、防衛医大の上野先生、梶原先生が事務局となっただいております。

梶原先生：大腸癌研究会のIRBが6月に通りましたので、現在防衛医大のIRBに変更申請中ですが、近日中に承認いただける予定です。承認後は、各施設の実施許可をもらい、防衛医大で50例分の準備しておりますデジタルスライドを各施設に送付いたしますので、これをみていただく、という予定で年内には開始できると考えております。

最後に、

最初の1年間がかなり少ない施設での登録でした。登録期間の1年間の延長を考えているのですが、皆さまにはご負担となる期間が増えてしまうこともあり、会場の先生方からご意見ありますでしょうか？

→上野先生：登録ペースも上がっているとのことですので、できれば3000例は目指したいと思っています。期間延長で良いのではないのでしょうか。

秋吉：現在1年半の時点ですので、次回の大腸癌研究会の折に、登録状況もみて延長については検討したいと思っています。

ご意見等ございましたら、メールなどでご連絡いただけたらと思います。